

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日  
Date of Application:

2001年 2月 5日

出 願 番 号  
Application Number:

特願2001-027704

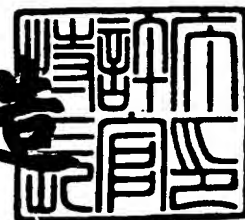
出 願 人  
Applicant(s):

花王株式会社

2001年 7月 9日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3064071

【書類名】 特許願  
【整理番号】 P00311302  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 A61K 7/13  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内  
    【氏名】 松尾 貴史  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内  
    【氏名】 宮部 創  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内  
    【氏名】 柴田 裕  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000000918  
    【氏名又は名称】 花王株式会社  
【代理人】  
    【識別番号】 100068700  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 有賀 三幸  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100077562  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 高野 登志雄  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100096736  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 中嶋 俊夫

【選任した代理人】

【識別番号】 100089048

【弁理士】

【氏名又は名称】 浅野 康隆

【選任した代理人】

【識別番号】 100101317

【弁理士】

【氏名又は名称】 的場 ひろみ

【選任した代理人】

【識別番号】 100117156

【弁理士】

【氏名又は名称】 村田 正樹

【選任した代理人】

【識別番号】 100111028

【弁理士】

【氏名又は名称】 山本 博人

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011752

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 染毛剤組成物

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 アルカリ剤を含有する第 1 剤と酸化剤を含有する第 2 剤を混合して用いる組成物において、次の成分 (A)～(D)、

(A) 25℃におけるオクタノール-水-分配係数 (logP) が 0.3～6 であり、かつ分子量が 200 以下である有機溶剤：1～50 重量%

(B) アルカリ剤：0.1～10 重量%

(C) 酸化剤：過酸化水素換算で 0.1～12 重量%

(D) 水：20～55 重量%

を含有し、混合後の pH が 7.5～12 である染毛剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、刺激臭が少なく、かつ毛髪の脱色力、染色力に優れる酸化型染毛剤に関する。

【0002】

【従来の技術】

酸化型染毛剤には、アルカリ剤を含有する第 1 剤と、酸化剤を含有する第 2 剤よりなる二剤型のものが広く利用されている。第 1 剤のアルカリ剤は、脱色及び染毛効果を高め、また酸化剤の働きを活性化して毛髪中のメラニン顆粒の酸化分解を進行させて、明るい色調を得るために配合されるものである。毛髪を地色より明るい色調に脱色又は染色するためには、十分な脱色力が必要とされるが、毛髪脱色力は一般にアルカリ量に依存するため、このような目的で使用する場合には、特に十分なアルカリ量が要求される。

【0003】

従来、一般にアルカリ剤としては、アンモニアが使用されている。しかしながら、アンモニアは強い刺激臭を有しており、施術時にかなりの不快感を伴うという欠点を有する。

【0004】

このため、アンモニアの代わりに、刺激臭の少ない有機アミン類を使用する試みがなされている（特開昭59-106413号公報、特開平1-213220号公報、特開平5-246827号公報等）。しかし、これらの場合では、毛髪を十分に明るい色合いに脱色することはできず、しかも、多量に用いた場合には、頭皮への残存性が比較的高いため、刺激を与えやすいという問題がある。また、これらの剤で毛髪を処理すると、毛髪が損傷を受け、しなやかさが失われ、ぱさついたり、くし通りが悪くなるという問題もある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、優れた脱色力を有し、また毛髪の色調を明るく良好な色合いにむらなく染め上げることができ、しかも刺激臭が少なく、頭皮への刺激も低い染毛剤組成物を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明者は、酸化型染毛剤中に、特定の有機溶剤を特定量含有させ、かつ水分量を特定の範囲内におさめることにより、上記課題を解決できることを見出した。

【0007】

本発明は、アルカリ剤を含有する第1剤と酸化剤を含有する第2剤を混合して用いる組成物において、次の成分(A)～(D)、

(A) 25℃におけるオクタノールー水ー分配係数(logP)が0.3～6であり、かつ分子量が200以下である有機溶剤：1～50重量%

(B) アルカリ剤：0.1～10重量%

(C) 酸化剤：過酸化水素換算で0.1～12重量%

(D) 水：20～55重量%

を含有し、混合後のpHが7.5～12である染毛剤組成物を提供するものである。

【0008】

この条件を満たすことによって、酸化剤とアルカリ剤を効率的に毛髪内で働か